

*****ここから『電子耕』*****

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第62号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

2001.7.12 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

*****発行部数 1255+87部*****

<キーワード>

農林・園芸を中心にして健康・食べ物・図書・人名・庶民の歴史をめぐる情報を提供し、<読者の声>欄でお互いの意見交換の場を作りましょう。

目 次-----

<読者の声>田ぼのおばさん：『電子耕』の感想。紀平さん：このまま自由に。

<「近藤康男三世紀を生きて」の感想>

斎藤さん：近藤先生と原田さんの迫力。大山勝夫さん：父の明治大正時代がよくわかった。松本正雄さん：戦前の思想弾圧を想いだした。藤井さん：屈辱の大改訂と満州農業移民の反省に驚いた。

<舌耕のネタ> 『電子耕』3年目を迎え、アンケートに答える」

◎『電子耕』3年目からの改編アンケートの回答◎

◆読者層アンケートのお願い

<山崎農業研究所>総会報告：「減反100万haの現地は、いま」

<農業・図書情報> 『耕』89号：山崎農業研究所（1000円）

<人名情報> 102歳・近藤康男の日常健康食

<日本たまご事情> 「平飼い」に問題あり、デンマーク動物愛護会議

<図書情報> 写真集『中国黄土高原』 沙漠化する大地と人びと

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけではなく、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。-----

<読者の声>田ぼのおばさん：『電子耕』の感想。

原田勉> 最近メールが少なくなっています。何を变えればよいか。教えてください。

私自身は興味のある内容で、時々メールを送ることを楽しみにしておりますが、ちょっと『難解』なイメージがあるのではないのでしょうか。論文調の硬さ

といたしますか、あまり素人向きではないかもしれませんね。

『小泉内閣メールマガジン』などというものの購読申し込みが殺到しているようですが、そういうことに飛びつく読者というのは物事を良く考えようという人は少ないのでは？少なくとも質の良い読者をつかむ事が大切だと思います。(わたくしの質が良いかどうかは別ですが)

確かに、以前盛んにメールで意見交換がされていましてね。良識ある意見交換の場であるために、ある程度の格調は必要ですが、もう少し親しみやすい内容の記事を載せては如何でしょう。『農』をテーマにするなら『ハウ・ツー』ものなどはどうでしょうか。「私はこうしている」「こうしたらよかった」という情報が集まるかもしれません。

余り参考になる意見ではありませんね。申し訳ありません。あれだけの内容をつぎつぎと発信していくのは大変な事だと思います。どうぞお体に気をつけて、これからもたのしい『電子耕』を送り続けてください。『田んぼのおばさん』も頑張ります。

● 『近藤康男三世紀を生きて』感想（1）

斎藤さん：6/28 三世紀を生きての感想。

近藤先生もすごいですがそれを支える原田先輩の執念も物凄いですね。
時間をかけてじっくりと読ませていただきます、感謝。

大山勝夫さん：6/29 父の明治大正時代がよくわかった。私の父は1900年生まれだから近藤先生より一つ若い。すでに故人だから若いころの話は聞かずじまいだった。この本で日露戦争のころどうだったか、大正デモクラシーのころにどう生きたか、時代背景がよくわかった。養蚕農家のことも詳しく、近藤家の屋敷配置図など懐かしい風景が思い出された。

コメント：近藤先生の話と部屋の畳数を聞きだし、私が平面図を書いて斎藤画伯にお願いしました。そのうちホームページで絵図の制作過程を紹介します。）

松本正雄さん：6/29 戦前の思想弾圧を思い出した。私が大学農学部に入學した昭和18年、同期の友人たちも皆んな近藤教授の講義を聞きたいといっていた。ところが8月に掲示板に近藤康男教授は休講と出していた。依願退官のこと

は後で知った。そのころは既に経済学部の教授の追放があり、近藤先生のこと
も教授会で問題にされず、学生の話題にさえ出来なかった。うっかりしゃべると
警察にひっばれる恐れがあった。

藤井さん：6/29 近藤康男先生の今度の本で「屈辱の大改訂」と「満州農業移
民の反省」に驚いた。当時のことを詳しく知らなかったことに気がついて、も
う一度『農業経済論』を読み直そうと思っている。それに近藤編『農文協六十
年略史』もぜひ読んでみたい。

コメント：松本さん、藤井さん有り難うございました。

このほか、岡山の画家で87歳になられる方から、「山陽新聞で拝見、わた
しも歳だからそろそろ引退を考えていたが102歳の近藤先生が著書を出され
たというので、もう一度頑張ろうと思って達磨さんの絵を描きました」と農文
協図書館に送って下さいました。近藤先生は勿論お礼の手紙と色紙をおくられ
ました。

<舌耕のネタ> 『電子耕』3年目を迎え、アンケートに答える

「3年目からの改編アンケートのお願い・その1」初めての試みに関わらずに
多くの回答をいただき有り難うございました。26人以上の方々の声で代表さ
れていると解釈してお答えいたします。

Q1、キーワードは同じだが、農林関係の記事を多くしたいが？について。

従来どおり自由でよいが65%、多くして欲しいが27%、農林関係記事以
外を多くして欲しいは2%でした。その趣旨にそって今後改善して行きたいと
思います。

Q2、Q3、Q4、など紙面編集についても<読者の声>を尊重し、全体とし
て短く、記事や投稿も簡潔にお願いすることなど改善しましょう。

Q5、実用記事を増やす（野菜の作り方、花の手入れ、食生活など）Q6、近
藤康男先生を初め高齢者の健康・長寿・ご意見をのせるも続けて行きたいとお
もいます。

くわしくは次の欄で紹介します。

◎『電子耕』3年目からの改編アンケートの回答◎

◆紙面編集方針について伺いました。

Q 1、キーワードは同じだが、農林水産関係記事を多くしたいが？

- 従来どおり自由でよい。 17人 (65%)
- 農林水産関係記事以外を多くして欲しい。 2人 (8%)
- 農林水産関係記事を多くして欲しい。 7人 (27%)
- コメントボード (自由回答できます)

No.2 (2001年06月30日17時04分13秒)

お名前:水野 詩都子さん

記事が多いのは結構ですが、ふだん農業に縁がないので意味が判らない記事も多々あります。本文ページには要約を入れ、深く読みたい人はクリックしてリンクページを見られるようにはできないでしょうか? ● 従来どおり自由でよい。

No.1 (2001年06月29日01時05分12秒)

お名前:紀平 重成さん

日本人は保守的だからつい現状維持を選択した--というわけではもちろんありません。自由な方が断然おもしろいです。 ● 従来どおり自由でよい。

Q 2、<読者の声>は従来通り全文を載せ、交流をはかりたい。

しかし、投稿の文章は短く、簡潔に願います。

- 従来どおり全文掲載して欲しい。編集して欲しくない。 10人 (50%)
- 掲載の際に短く編集してもかまわない。 10人 (50%)

Q 3、全体として短く、1回分はプリントアウト5頁前後とする。

- 従来どおり自由でよい。 17人 (81%)
- 賛成であるこれからは短く。 3人 (14%)
- 多少長くなってももっと詳しく。 1人 (5%)
- コメントボード (自由回答できます)

No.1 (2001年06月30日17時12分19秒)

お名前:水野 詩都子さん

先ほども述べましたように、伝えたいことがあるのに無理矢理短縮するよりも、要約と長い本文をわけるのが誰にとっても無理がないのでは？また、主要な内容部分は従来通りにして、選択的に読んでほしい部分をこの要約部分と詳細部分にわける方法にしても良いかも。 ● 従来どおり自由でよい。

Q 4, 長文の論文はやめる (近藤・原田のホームページに載せる)。

- 長文の論文はホームページに載せるだけでよい 2人 (10%)
 - 多少長くなってももっと詳しく。 1人 (5%)
 - 従来どおり自由でよい。 17人 (85%)
-

Q 5, 実用記事を増やす (野菜の作り方、花の手入れ、食生活など)。

- あまり興味ない。 4人 (22%)
 - もっと実用記事を増やして欲しい。 14人 (78%)
-

Q 6, 近藤康男先生を初め高齢者の健康・長寿・ご意見をのせる。

- 興味がある。 7人 (35%)
 - あまり興味ない。 4人 (20%)
 - 従来どおり自由でよい。 9人 (45%)
-

★協力：「メールマガジンをおもしろくする《クリックアンケート》」

→→ [<http://clickanketo.com/>]

Q 7, その他ご意見コメント

Q 7は回答なし。

61号<投稿：わが家のプランタートマトに傘をさした。栗田庄一さん>

■興味ぶかく読んだ 8 人 (62%)

■おもしろかった。 5 人 (38%)

61 号<人名・歴史情報>近藤康男・3 世紀 (聞き書き草稿・連載 3)

■興味ぶかかった、今後も続けて欲しい。 6 人 (75%)

■HP で公開の際にページを教えてください。 2 人 (25%)

今号では◆読者層アンケートをお願いします。

今までまったく手探りでやってきましたがこの期に伺いたいと思います。

また、他の読者についてもみなさん興味がおありかと思ひます。ご協力お願いします。

お答えによって、個人を特定できる情報はこちらには伝わりませんのでよろしくお願いします。

☆インターネットに接続したまま、ご回答ください。

☆回答はお考えに最も近い文章の下のリンク URL をクリックするだけで結構です。

☆お答えは自由選択です。該当がなければいずれも選択なさらずとも結構です。

☆一つの問いに複数回答は出来ません。

☆回答するしないにかかわらずコメントを記述することもできます。

(コメントにはメールアドレス記入欄がありますが必須ではありません)

☆回答後即座に途中経過が確認できます。他の方のコメントがあれば参照できます。

☆無記名アンケートです。回答することによって回答者のメールアドレスなどの個人情報が質問者に伝わることはありません。

★協力：「メールマガジンをおもしろくする《クリックアンケート》」

→→ [<http://clickanketo.com/>]

■アンケートの回答は、 2001 年 07 月 20 日 18 時 00 分 まで受け付けます。

Q 1 .性別を伺います。

◆男性です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006004a91> >

◆女性です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006004a02> >

■途中経過・最終結果を見る

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006004a20> >

■コメントボード

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000600415> >

Q 2 .世代を伺います。

◆10代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005a11> >

◆20代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005a82> >

◆30代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005af3> >

◆40代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005a64> >

◆50代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005ad5> >

◆60代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005a46> >

◆70代です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005ab7> >

◆80代以上です。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005a28> >

■途中経過・最終結果を見る

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006005aa0> >

■コメントボード

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000600524> >

Q 3. 『電子耕』はどこでお読みになっていますか？

◆自宅で。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006006a91> >

◆職場・学校で。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006006a02> >

■途中経過・最終結果を見る

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006006a20> >

■コメントボード

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000600627> >

Q 4. 購読の主たる動機はなんですか？

◆趣味・好奇心で。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006007a11> >

◆仕事・学業の必要から。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006007a82> >

■途中経過・最終結果を見る

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006007aa0> >

■コメントボード

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000600784> >

Q 5. どうやって読んでいますか？

◆主にプリントして紙で読んでいる。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006008a91> >

◆主にパソコンで読んでいる。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006008a02> >

◆主に携帯機器で読んでいる。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006008a73> >

■途中経過・最終結果を見る

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006008a20> >

■コメントボード

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000600891> >

Q 6. 『電子耕』文中にある参考URLについて。

◆全くクリックしたことがない。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006009a11> >

◆ほとんどクリックしたことがない。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006009a82> >

◆興味ある記事ではクリックしてリンク先を読んでいる。

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006009af3> >

■途中経過・最終結果を見る

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006009aa0> >

■コメントボード

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000600915> >

Q 7. 主たる職業をお伺いします。兼業の場合は主な方をお答えください。

◆学生・研究生

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a01> >

◆農林漁業

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a72> >

◆公務員

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010ae3> >

◆会社員

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a54> >

◆自営業

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010ac5> >

◆自由業

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a36> >

◆主婦・主夫

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010aa7> >

◆教職員

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a18> >

◆団体職員

↳ <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a89> >

◆無職

↳< <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?r00006010a01> >

◆その他

↳< <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?r00006010a72> >

■途中経過・最終結果を見る

↳< <http://clickanketo.com/cgi-bin/a.cgi?q00006010a90> >

■コメントボード

↳< <http://clickanketo.com/cgi-bin/cb.cgi?q0000601091> >

ご協力ありがとうございました。

<山崎農業研究所>総会：6月29日「減反100万haの現地は、いま」

総会・活動報告と計画、山崎記念農業賞贈呈式、新シンポが行われた。
受賞者は埼玉県妻沼町善ヶ島地区水田集団転作協議会というグループ。
シンポジウム：表題の通り、減反政策が始まった1971年から30年経って
現在では100万ヘクタールを超えた。その現地は、いまどうなっているか。
つぎの三つの地区での苦悩と創意の報告と討論が行われた。

司会：古野雅美（森とむらの会専務理事・山崎農業研究所会員）

- 1、地域連携による飼料イネの普及（埼玉・善ヶ島地区）専技・増山忠良
- 2、転作定着は地産地消（茨城・新治村農業振興公社）事務局長・栗原愛明
- 3、麦・大豆作化の要点（青森・五所川原市桜田集落）農家・笠井実

『電子耕』編集部取材：表彰された埼玉・善ヶ島地区の稲わらサイレージの生産と利用例を中心に紹介しよう。

『近藤康男・三世紀を生きて』のまえがきに、「減反政策が始まったとき全国的にエサ米を作ろうという運動がありました。それから15年、秋田県の雄勝酪農組合がエサ米のホール・クロップ・サイレージを飼料にして成功したという記事が『農村と都市をむすぶ』に載って驚き喜んだ」と書いています。

それと同じ飼料イネのホール・クロップ・サイレージを埼玉・善ヶ島地区で20年かけて生産・利用した事例が今回の受賞になり、シンポの中心的話題になったことです。今では農林水産省でも「稲発酵粗飼料」と名付けて平成12年度から転作奨励金10アール当たり83,000円を出すことになり、利用

する畜産農家にも20,000円を出すことになったのです。

それと言うのも、実は家畜の口蹄疫が発生したからです。原因は輸入稲・麦わらが浸入源とみられ、国産稲わらの利用拡大対策として取りあげたわけです。12年度は飼料用稲の栽培面積は363ヘクタールであったが、13年度は2,000ヘクタールに拡大する見込みになったという訳です。

埼玉県で偉いのは昭和61年に飼料稲登録1号として「はまさり」という品種を開発したで、多収性、耐病性、牛の食用にも適する、多肥でも倒れない。それを農家が湛水状態の水田に7月上旬田植機で植える。あとは、畜産家が10月中旬に子実も茎葉も一度に刈り取り、乾燥してホール・クロップ・サイレージを作り貯蔵して家畜に与える。

こうして、水田の機能をそこなわず、畜産飼料の自給の途が成立し、輸入エサのよる加工畜産業が生まれ変わる可能性へ1歩踏み出したことの意義は大きい。

この報告を近藤先生にしたら喜ばれて、次のように語られました。

「山崎不二夫さんは東大で同僚でしたが、その遺産で良い研究所を作られたね。水田のエサ米が今時見直されるとは驚きだね。農林省も口蹄疫が発生しないうちにイナ藁利用を考えれば良かったのに」

詳しいことは下記に資料がありますので申し込んで下さい。

資料・『耕』希望者は、山崎農業研究所 03-3357-5616 小泉・井上までご連絡ください。

<mailto:tom@nazuna.com>

<農業・図書情報> 『耕』89号：山崎農業研究所（1000円）

特集：日本農業は生き残れるか。1、市場の論理と農の論理の対決・松坂正次郎、2、農業技術の爛熟と閉塞—21世紀に期待される技術・林尚孝。

- ・水を主体とする流域資源管理システムの構築・佐藤晃一
- ・地域用水と住民参加・山崎義勝
- ・現地ルポ：英国口蹄疫汚染地区を歩く・小泉浩郎

・その他農林・バイテク、農村ビオトープ、農村定点観測など満載。
(申込は山崎農業研究所へ)

<人名情報> 102歳・近藤康男の日常健康食

朝食：パンと牛乳、紅茶、野菜と干物の魚。

昼食：玉子とじうどん。

お三時：茶菓子は煎餅や和菓子・ケーキのようなもの。

夕食：ご飯、みそ汁（わかめ・野菜・たまご）、魚が多い。

ときに、肉料理もあるが、少し固い、そんなときは消化剤を飲む。

農文協図書館では、昼食のあと、30分の昼寝。お三時のときおはなし、

「今年の梅雨は雨が少なく、暑いね」

「もうすぐ夏休みですが避暑に山荘には行かれないのですか」

「まだ、話がないね、家族の都合に従って、行かねば口が干上がるから」

「四世代家族の夏休みはいいですね」

<日本たまご事情> 「平飼い」に問題あり、デンマーク動物愛護会議

6/26 6/22の Irish Examiner 紙によれば、デンマーク動物愛護会議 Danish Animal Welfare Council は「平飼い」飼育の鶏の死亡率が「バタリー」飼育のそれにくらべて3-4倍高いとの調査結果を発表して EU の動物愛護グループに衝撃を与えている。

<http://breaking.examiner.ie/>

「平飼い」飼育は人間の見た目には自然で鶏も幸せそうに見えるが、現実には厳しいのです。

戦前の日本の養鶏は100%「平飼い」でした、それは鶏病との戦いでした。それが「バタリー」飼育により大きく改善されました、「バタリー」飼育を攻撃し止めさせようとしている EU の動物愛護グループにとって本当の動物愛護とはなにかを問うことになりました。

齋藤 富士雄
(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

<図書情報>写真集『中国黄土高原』沙漠化する大地と人びと

(A4版208頁) 撮影・橋本紘二(東方出版) 定価6000円+税
橋本カメラマンが、5年間かけて日本からの植林活動に同行して撮影、完成したもの。広大な中国の黄土高原が沙漠化する諸相とその大地に働く人びとたち、「緑の地球ネットワーク」などを描く。

目次：まえがき・人間の文明が砂漠化をもたらした

黄土高原の四季：春・35、夏・18、秋・7、冬・25カット

砂漠化する黄土高原に木を植える人たち・27カット

撮影後記：撮影を始めたのは1996年3月から、山西省の天鎮を歩いていたからお爺さんに「お前は日本人か」と呼び止められた。そうだと答えると激しく罵倒した。通訳に聞くと「1937年、日本軍は大勢の人を殺し、誰もいなくなった。自分は4歳だったが日本兵に撃たれた父親が自分の上に覆いかぶさって死んだ」と言う。日本に帰って親父に写真を見せると「昔と変わっていないな」という。橋本の父も徴兵されて山西省に行っていたと知り愕然とした。

そして5年かけ、黄砂のためにカメラ3台撮影不能にして撮り続けた。これはまさに足で記録した社会主義リアリズムのドキュメントだ。(原田勉)

(農工大日中友好会のホームページ参照)

<http://jc-yuko.gr.jp/>

<http://jc-yuko.gr.jp/jigyo010620.html>

— P R —

■■■■

劇団文化座・旅公演

■■■□

原作・志賀かう子 脚本・堀江安夫 演出・鈴木完一郎

■■□□

『ほにほに、おなご医者』ほにほに、おなごせんせい

■□□□

公演期間 2001年5月11日～8月3日

□□□□

中国ブロック・中部・北陸ブロック演劇鑑賞会

□□□□

御覧になりたい方は、各地演劇鑑賞会へのご入会が必要です

<http://bunkaza.com/>

— P R —

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/10.html>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第62号

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2001.7.12 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

*****発行部数 1255+87 部*****ここまで『電子耕』*****

.